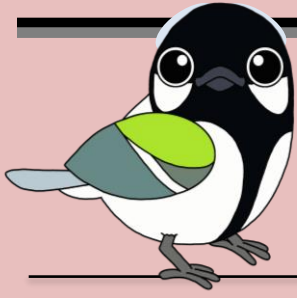


しじゅうから



小鳥の森で観察してみよう 142

ショウジョウバカマ

分類 ユリ目 シュロソウ科

大きさ：10～30cm

生育している環境

・山の谷沿いなどの湿った場所

小鳥の森で見られる時期

・3月下旬～5月

小鳥の森で見られる場所

・ネイチャーセンター周辺やシジューカラの小径の入口付近

花は茎の先によこ向きにつく

葉は根元で平らに広がる



すずき ふうか さん (5才) が描いてくれました。

3月 いきもの森予報

春のはじめの植物たち

春と呼ぶには少し寒い3月。それでも暖かい日ざしが森の生き物をだんだんと目覚めさせます。園内では「春の妖精（ようせい）」と呼ばれる植物たちが花を咲かせ、春のはじまりを知らせてくれます。その中からいくつかご紹介（しょうかい）。

1つ目は上のイラストでも描いていただいたショウジョウバカマ。花の色は赤っぽいむらさきが多く、お酒が大好きな想像上の生き物「猩々（しょうじょう）」の赤い顔色に似ていることから名前が付けられました。小鳥の森ではピンク色に色づきます。

2つ目はカタクリ。3月の終わりごろから2週間ほどだけ、うすむらさき色の花を咲かせます。花びらは寒い日や夜の時間は閉じていますが、暖かい昼の時間になるとクルンとカールさせて開きます。小鳥の森には3か所の群生（ぐんせい）たくさん生えている場所があり、一度にたくさんの花を観察することができます。

春の短い間だけあらわれる妖精たち。ぜひ会いに来てくださいね。



← ↑
カタクリ
ショウジョウバカマ

雪の日の森



アトリ

ヤマガラ

体の芯（しん）まで冷えた日が続いた2月。6日にはまとまった雪も降り、12cmほど積もりました。園内の木や竹は雪の重さでしなって（折れずに曲がって）いました。こんな日は野鳥たちの動きが活発に。その理由は、深い雪をほることができず、雪のうすい場所や木の上、背の高い草など、限られた場所でしかエサを探せないからです。



カワラヒワ

ネイチャーセンターのまわりでは、寒さから身を守るため羽をふくらませた丸い姿のアトリやヤマガラ、カワラヒワなどたくさん野鳥を観察することができました。雪の間から春の訪れを感じるできごとが。小さなフキノトウのつぼみがひょっこりと顔を出していました。春が近づいてきたメッセージのようでした。



フキノトウ

自然のお便り

肉球（にくきゅう）の役割

小鳥の森に住んでいるホンドタヌキ、ニホンアナグマ、ムササビ。この生き物の共通点（似ている部分）がなんだか分かりますか？それは「肉球」があること。イヌやネコの足の裏にもある、やわらかく盛り上がった毛の生えていない部分です。ゴムのように弾力のある肉球。地面を歩いたり高い所から飛びおりにときにクッションになって骨などを守っています。また、肉球から汗を出すことで肉球をしめらせすべり止めの役割も。体温の調節もこの部分でしています。

かわいい足あとのイメージのある肉球ですが、じつはたくさんの役割があったのですね。

イベント報告

花炭体験

2月10日（土）に花炭体験を行いました。花炭とは木の実や葉、花などをそのままの形で炭化させた炭の一種です。見た目が優雅なため「飾り炭（かざりずみ）」とも呼ばれています。

参加者の方々はマツボックリやドングリなど様々な植物を選び、40～50分ほどかけてゆっくり火入れしました。その間、炭と里山の関係についての話を聞いたり、花炭を入れる竹の器を作るなどして出来上がりを待ちました。

完成した花炭は黒く光り、とても美しい作品となりました。



炭と里山のお話

完成した花炭

*小鳥の森通信「しじゅうから」はホームページでカラー版をご覧になれます。

*園内の環境放射線量の詳細はホームページをご覧ください。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時

《入場無料》休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口市宮脇98 Tel：024-531-8411 fax：024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f-kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2024年3月号№453 / 企画・発行：福島市小鳥の森 / NPO法人野鳥の会ふくしま

